

2023/7/13(木) 「乳がん」って、他人事(たにんごと)と思っ
ていませんか?

最新の統計では 2021 年、我が国では約 38 万人の方が無くなりました。3 大死因は、第 1 位が「がん」、第 2 位が「心臓病」、その次は「老衰」です。約 14 万人、27%の方が「がん」で亡くなっています。「がん」にかかる方は年々増えており今や年間 100 万人の方が何らかの「がん」に罹っています。一生のうちで「がん」と診断される確率で見ると、なんと 2 人に 1 人です。4 人家族であれば 2 人は「がん」になる計算になります。「がん」はとても身近な病気とも言えますし、私たちが乗り越えなければならない壁とも言えます。

私は、外科が専門で、これまでいろいろながん患者さんの診断や治療を行って来ました。この 30 年でも、がん患者さんは増えている、という印象を持っていますし両親も「がん」で他界しており、「がん」はいつなってもおかしくない、と思います。現在女性でなりやすい「がん」としては、第 1 位が乳癌、以下、大腸癌、肺癌、肺癌、胃癌、子宮癌の順です。まさしく、乳癌は女性では圧倒的に多い癌です。我が国では、毎年 40 万人強の女性が“がん”と診断されていますが、その 1/4 も約 10 万人が「乳がん」と診断されています。なんと、9 人に 1 人が乳がんにかかる計算になります。これは日本のみならず世界中、どこでも同様の傾向です。北アメリカ、ヨーロッパのような先進国だけでなく、これまで途上国と言われていた南アメリカ、アジア、アフリカの多くの国でも、ここ 10 年で、「乳がん」が最も多い女性の「がん」であることがわかっています。まさに、社会の進歩とともにふえる「文明病」と言えます。ラジオをお聞きの皆さんの、ご家族、ご近所、職場においても、「誰かが乳がんにかかった」といったことを耳にしておられるのではないのでしょうか。しかし、多くの方は、「●●さんは乳がんになったけど、自分はがん家系ではないし、子供も産んでい
るから乳がんにはならない」と思っておられませんか?私の勤務する病院で治療を受けられた乳がん患者さんにお聞きしますと、100 中 100 人、全員が「まさか自分が乳がんにかかるとは夢にも思っていませんでした。」とおっしゃられます。ヒトはだれでも、嫌なことを自分にあてはめようとせず、自分に限っては「それはない」と思い込んでしまいがちです。確かに今の自分はそうではないでしょうが、いつ自分がかかってもおかしくないわけです。

こうした患者さんの多い癌に対しては、国は「がん検診」を全国の各市町村で行うように法律を制定していますが、皆さん、「がん検診」を受けていらっしゃるでしょうか?厚生労働省は「がん検診」を推進しており、乳癌をはじめ、胃癌、大腸癌、肺癌、子宮癌を 5 大がんとして、市町村では検診推進活動が行われています。定期的にご家庭に配られる市民時報や、タウン誌にも、各市町村のホームページでも「がん検診」についての案内がかかれています。今 7 月ですが、「がん検診」は全国どこでも行われていますので、是非とも今すぐにも確認してください。国は 2017 年、国民の「がん検診」受診率 50%以上を目標に設

定しました。しかし2019年時点で50%を超えたのは肺癌検診の53%だけ、乳がん検診は47%ともう一歩です。言い換えますと、まだ半分以上の方は乳がん検診を受けられておられない、ということです。乳がん検診受診率は、ヨーロッパの多くの国やアメリカでは80%以上です。お隣の韓国でも70%近くで、先進国では日本はまだまだ検診率は低いと言わざるを得ません。

日本の乳がん患者さんは年間約10万人、とお話ししました。しかし幸いなことに、その中でも大部分の88%はステージ0, 1, 2という比較的早期の患者さんです。これは乳がんが、他の「がん」と比べて、乳がん検診で行うマンモグラフィーは比較的簡単で、お安く施行可能です。加えてご自身で乳房を定期的に触って頂く、すなわち「自己検診」を行う事で多くの乳がんは発見出来るからです。市町村の「乳がん検診」は2年ごとに行う事が推奨されています。これに加えて、自己検診を毎月寝る前にご自身で行っていただくだけで、発見率はぐっと上がります。今、日本の乳がん全体の治療成績は、10年生存率も88%であり、甲状腺癌、前立腺癌とともに、治りやすい「がん」のベスト3です。これはあくまでも早期に発見し治療される患者さんが増えているからです。乳がんは40歳から60歳という人生の真ただ中の方がなりやすいのも特徴です。こういった方のこれから20年、30年後の幸せな生活を迎えるために、9人に1人がかかると言われる乳がんを少しでも早く発見し、治療し、打ち勝っていききたいものです。